



治験実施優秀者表彰



後列（左から）三宅 映己（第三内科）、松元 隆（産婦人科）

前列（左から）石井 榮一（臨床遺伝医療部）、三浦 裕正（病院長）、永井 将弘（薬物療法・神経内科）

当院で実施された治験において、多くの症例を担当した医師を表彰する「治験実施優秀者表彰」（治験実施優秀者の病院長表彰制度）を平成30年9月13日に行いました。表彰者は、平成29年度に7症例以上を実施した医師上位5名の松元 隆（産婦人科）、永井 将弘（薬物療法・神経内科）、多田 聡（薬物療法・神経内科）（欠席）、岡 靖哲（睡眠医療センター）（欠席）、三宅 映己（第三内科）となりました。

また、部門賞においては、臨床遺伝医療部が受賞しました。平成29年度実施の認知症試験で、毎月約30名の被験者に対して遺伝に関する説明を個別に行う等、積極的な協力体制での支援を評価されました。治験では遺伝子検査が増えてきており、今後も引き続き多くの被験者に対し遺伝カウンセリングを実施する等、治験への貢献が期待される部門でもあります。

市民公開講座「病気とくすり」開催報告

毎年恒例となっております市民公開講座「病気とくすり」を、平成30年7月1日（日）に、いよてつ高島屋の9階ローズホールにて開催しました。

この講座では「もっと知りたい最新治療」をテーマとして、以下の講演を行いました。

「頭痛の治療について 予防薬の重要性を含めて」

愛媛大学医学部附属病院 薬物療法・神経内科／
済生会松山病院 脳神経内科 矢部 勇人 部長

非常によくある病気の一つの頭痛について、片頭痛、薬物乱用頭痛を中心に話がありました。

症状の強い片頭痛は、神経疾患の中では健康や寿命に影響を与える割合が脳卒中に次いで高く、薬物乱用頭痛は頭痛薬、特に市販の痛み止めを頻繁に飲むことで逆に起こり、近年注目されているとのことでした。

また、頭痛を誘発するカフェイン摂取を控えるなど、生活習慣を改善することで、頭痛を予防・軽減できる場合もあるそうです。

最近では治療薬・予防薬の使い方が確立してきていることや、開発中の新薬についても情報を得ることができました。



矢部 勇人 部長

「学ぼう！パーキンソン病治療について」

愛媛大学医学部附属病院 薬物療法・神経内科／
臨床研究支援センター 永井 将弘 センター長

神経の病気であるパーキンソン病治療についての講演がありました。

円滑な運動には欠かせない神経伝達物質のドーパミンをつくる神経細胞が減り、手足がふるえたり動きに支障がでたりするパーキンソン病は、神経の病気の中では、治療薬が最も豊富だそうです。

飲み薬のほか、貼り薬や注射薬、携帯ポンプを使用して腸に投与する治療法、また植え込み装置で脳深部を電気刺激する脳深部刺激療法もあり、個人によって効き目は異なるとのことでした。

新しいパーキンソン病治療薬の発売で治療の選択肢も増え、長期間普通の生活を過ごせるようになってきたことが分かりました。



永井 将弘 センター長

「くすりのイロハ」

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 飛鷹 範明 助教

近年、さまざまな薬が発売、使用されており、使い方を誤ると大きなリスクにつながるため、薬の正しい知識についての説明がありました。

薬には、治療上の目的とする作用のほかにも、望ましくない「副作用」があり、用法用量を必ず守って使うことが重要で、守らなければ期待するような効果が発揮できないことや予期せぬ副作用につながることもあるそうです。

また、薬の形にも意味があり、苦みを感じないようにカプセルや錠剤にしているものを開封したりかみ碎くと、飲みにくくなるばかりか効果が弱まり、副作用のリスクが高まることもあるなど、薬についての理解を深めることができました。



飛鷹 範明 助教



スライドを用いた説明は大変わかりやすく、皆さん熱心に聴講されました。今回の講座も多くの方からご好評をいただきました。次回は、平成31年6月9日（日）に、いよてつ高島屋9階ローズホールにて開催予定です。次回もぜひ、皆様お誘い合わせのうえご参加ください。

創薬・育薬セミナー 開催報告

平成30年4月24日（火）に院内で、第34回創薬・育薬セミナーを開催し、同年4月1日に施行された臨床研究法について、研究者に向けて周知を図りました。

永井 将弘臨床研究支援センター長より、臨床研究法の対象となる臨床研究や、その中でも特に、未承認・適応外の医薬品等を使った臨床研究と、製薬企業等から資金提供を受けた医薬品等の臨床研究を「特定臨床研究」とし、認定臨床研究審査委員会にて審査すること、その際に審査料が設定されていることの説明がありました。

また、臨床研究法施行規則について、利益相反管理などの実施基準の遵守義務など、法律に基づく実施・指導体制についての話もありました。

事務部門からは、特定臨床研究の開始手順と、法施行前から実施している特定臨床研究の対応についての説明がありました。

平成30年12月17日（月）に院内にて、第35回創薬・育薬セミナーを開催しました。

永井 将弘臨床研究支援センター長より「臨床研究実施における注意点」として、正しい手順を踏むこと、被験者の人権と福祉の保護、研究の質の確保、組織で運営することなどが挙げられました。

お招きした大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部の真田 昌爾先生からは、「臨床研究法のエッセンス～統合指針との違い、特定臨床研究・臨床研究への当否の境界線など～」をテーマにご講演いただきました。

臨床研究法下でよりよい研究を実施するために大切なことを学びました。



真田 昌爾 先生

平成31年2月19日（火）に院内にて、医療倫理についての専門医共通講習と共催して第36回創薬・育薬セミナーを開催しました。

永井 将弘臨床研究支援センター長を講師として、臨床倫理の方法論やインフォームドコンセント、倫理規範の歴史的経緯をもとに研究倫理の問題点について講習をしました。

倫理的ジレンマに気付き、様々な価値観を持つ他職種で対話して解決へ結びつけることや、研究の倫理性、科学性が揺るがないことの大切さを学びました。



臨床研究・治験の責任者となるには、申請時点でセミナー（創薬・育薬セミナー等）を受講済みであることが必須条件の一つであり、2015年4月1日施行の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では、少なくとも年に1回程度の教育・研修を受けることが望ましいとされています。臨床研究の実施をお考えの方など、臨床研究に興味をお持ちの皆様のご参加をお待ちしております。

臨床研究支援センター発表報告

～第18回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議2018 in 富山～

平成30年9月16日（日）、17日（月）に「第18回CRCと臨床試験のあり方を考える会議」が「レジリエンスの高いProfessionalを目指して ～今、“SHINKA”の時～」のテーマのもと、富山国際会議場、ANAクラウンプラザホテル富山、富山市民プラザの3会場において開催され、当院のCRCも参加し、下記のタイトルでポスター発表をしました。

「愛媛大学医学部附属病院における第Ⅰ相試験の実施体制の現状と課題」

白方 理香

コメント：不定期に実施される第Ⅰ相試験を、ルーチン業務に取り入れる事は難しいですが、実際に試験が始まった時に、全員が同じように対応できるよう、引き続き手順書の作成や、見直しに取り組んでいきたいと思います。



セミナー開催のご案内

— 市民公開講座「病気とくすり」 —

日時 平成31年6月9日（日）13：30～15：30

会場 いよてつ高島屋 9階 ローズホール

内容 未定

受講料無料・申込み不要

詳細は臨床研究支援センターのホームページにて随時お知らせします。



臨床研究支援センターへのご意見・ご要望などをお寄せください

愛媛大学医学部附属病院 臨床研究支援センター

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454

TEL：089-960-5914、5920（ダイヤルイン）

FAX：089-960-5910

<http://www.m.ehime-u.ac.jp/hospital/clinicalresearch/>

